

第1回

課題を解決するためのレディネスをそろえるためには？

今年度も学校訪問をさせていただき、小中学校のさまざまな授業を参観しました。先生方は授業構想を練り上げ、教材研究に熱心に取り組み、一生懸命指導する姿が見受けられ、大変うれしく思いました。反面、訪問を通しての次のような課題も浮き彫りになってきました。

- 1 本時の課題を解決するためのレディネスがそろえられていないことが多い。
- 2 本時の課題が児童・生徒の意欲を高めるものになっていないことが多い。
- 3 自力解決の時間が指導案上では計画されているものの、実際にはあまりとられていない。
- 4 課題を解決した後の問題練習が取り入れられないことが多い。
- 5 「課題（めあて）」と「まとめ」の整合性が図られていないことがある。

学力向上を図るためには授業の充実が第一であり、必要不可欠なものです。そこで、上記のような課題に焦点をあて、授業の充実を図るための視点や改善方法視などについて述べていきたいと思えます。1回につき1項目程度の割合で掲載していく予定です。

今回は、第1回として「課題を解決するためのレディネスがそろえられていない。」の改善について述べてみたいと思えます。

レディネスをそろえることが必要な理由は？

算数・数学科は系統性の強い教科です。そのため、前時や既習の内容が、本時の学習課題を解決するのに必要となる場合がほとんどです。前時や既習の内容の定着が図られていなければ、課題を解決することが困難になり、ねらいに迫ることができないといっても過言ではありません。

レディネスをそろえる方法は？

レディネスをそろえる方法

本時の内容にかかわる既習事項や課題を解決するのに必要な事項を「基礎事項」とし、授業の最初に「基礎事項の確認」を下の例のように位置づけ、確認を行うようにする。

段階	学習活動・内容	時間	形態	・指導上の留意点 ○評価
課題把握 (導入)	1 本時の学習に必要な基礎事項を確認する。 ① 三角形の内角の和 ② 多角形を三角形に分ける方法	5	一斉	・三角形に分ける方法だけでなく、どの方法がよいかについても確認させる。
	2 本時の問題を把握し、課題を設定する。	5		

基礎事項を明確化する手順

- 1 本時のねらいを行動目標化する。
- 2 それぞれの行動目標を達成するのに不可欠な要素を「基礎事項」とする。
- 3 児童・生徒の実態をふまえ、確認する内容を決定する。

<小学校の例> 第5学年 比べ方を考えよう 「単位量あたりの大きさ」

本時のねらい

こみぐあいを比べることをとおして、単位量あたりの考え方をを用いることの有用性に気づき、単位量あたりの意味や求め方がわかるようにする。

問題（本時の）

A, Cのレジャーシートでは人のこみぐあいが高いのはどちらか。

	面積(m ²)	人数(人)
A	6	9
C	5	8

→

課題（本時の）

面積も人数も違うときの、こみぐあいを比べよう。

行動目標

- ① こみぐあいはどちらの単位にそろえればよいことを指摘できる。
- ② こみぐあいを求めることができる。
- ③ 単位量あたりの考え方の有用性がわかる。
- ④ 単位量あたりの意味や求め方がわかる。

基礎事項

- ・こみぐあいの意味
- ・公倍数の求め方
- ・1 m²あたり, 1人あたりの意味
- ・1単位量あたりとみる。

<中学校の例> 第2学年 平行と合同 「多角形の内角の和」

本時のねらい

多角形の内角の和は $180^\circ \times (\text{頂点の数} - 2)$ で求められることを理解し、これを用いて内角の和をもとめることができる。

問題（本時の）

十七角形の内角の和を求めなさい。

→

課題（本時の）

角の数が多角形の内角の和はどのように求めればよいか。

行動目標

- ① 角の数が多角形は図示が難しいことを指摘できる。
- ② 多角形を1つの頂点から出る対角線によって三角形に分けると、頂点の数, 対角線の本数, できる三角形の個数の関係に気づく。
- ③ 多角形の内角の和は, $180^\circ \times (\text{頂点の数} - 2)$ で求められることがわかる。
- ④ 多角形の内角の和の求め方を利用してさまざまな多角形の内角の和が求められる。

基礎事項

- ・多角形の角, 辺, 頂点の数
- ・1つの頂点から引ける対角線の本数
- ・できる三角形の個数
- ・ $180^\circ \times (\text{できる三角形の個数})$
- ・代入